

# 補整下着 生活にどう影響

## 弘大と「アツギ」(神奈川)

### 弘前市職員対象 体形変化など検証

弘前大学と、下着製造販売の「アツギ」(本社・神奈川県海老名市)は、今月、スパッツ状の補整下着が体形や生活習慣にどう影響するかを検証する研究を弘前市職員60人を対象に開始した。10日は同大の健康未来イノベーションセンターで、職員の体形測定や試着などを行った。今後3カ月間、下着を着けてもらい、着けない人との比較・検証を行う。

検証に使う補整下着は、同社が開発中のもので、収縮性があり、下半身の引き締め効果がある。

対象となる職員は30歳以上の男女。8月ごろまで下着を着けた人(約30人)と着けない人(約30人)を比較し、体形の変化を調べる。また、下着着用による見た

目の変化によって、より積極的に食生活・運動習慣改善に取り組むようになるのかについても調査する。

同日の体形検査では、3Dスキャナーで体重・身長などを測り、下着を着けた後の血圧、肺活量なども調べた。

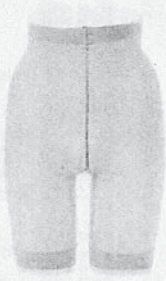
体形が気になり始めてきたので研究に協力することにしたという市文化スポーツ課の村田善彦さん(49)は「下着の引き締め効果に期待したい。運動・食事にも気を付けたい」と語った。

弘前大学大学院医学研究科の中路重之特任教授は「きれいになりたい」という気持ちを生かして、健康づくりを広げていきたい」と話した。アツギ技術開発部の大石秀樹マネージャーは、むつ市に工場があることを

踏まえ「将来は、むつでも検証を行いたい。検証成果を、新しい商品やサービスにつなげられれば」と語った。

弘大とアツギは昨年6月、共同研究講座「健康と美 医科学講座」を設置している。

(菊谷賢)



【写真上】補整下着を着けた後、血圧を測る市職員。10日、弘大(同下) 今回の検証事業に使われる補整下着と同タイプのアツギ社製の下着